

見よ今國の一本松婦人傷害事件を

されど冷静にして正しき立場と方針とを取る我輩等と公正なる社会の前に
會社側の陰險なる術策は遂に裁かるゝ聽体を演じた。
兄弟よ自重せよ。然して我輩が正しき眞実の前にヨク兄弟を結束せ
しめよ。

◎ 一本松門前、傷害事件の發端。

一月十七日午前七時 角野村字鹿本林に住居する別子銅山鉱夫の婦
人連、鹿本林住居者、五十七名 同じく新田の十名、川西二名、計六十九名
の者は當日早朝山麓を出立して金山頂上一本松部落(海拔三千尺)に
ある金山比羅宮に参拝せんと嶮しき山道を上った。

斯くて午前十一時東平操鉱課の上へ一本松部落出入禁止のため特に爭議中會社
が急造せる(黒間)に到着した。

會社の傭人、現人事係丸岡某氏、水野某氏等堅く門を闔して此
の婦人連の通行を阻止した。たゞ婦人連の先頭に居た土井ヤク女
は不通過の現状を知り、切に閉門せられん事を前記二兩氏連に哀訴した。

然し丸岡氏等は断乎として之れを聞かざり。

元来一本松金山比羅宮は金山の足跡者、崇拜の宮にして今日迄皆熱心に坂道と
踏んで参拝したものである。従つて當日に限り之を阻止するが如き事は謂
れなき事柄である。と信ずる。

此の爲に傭人連は是非通してと線返して依頼してゐたが會社傭人は「此處
は往來の鉱業地帯だから通す事は出来ぬ皆んなの爲に立てた金山比羅宮様でない
といふ仲々に閉門したのだ。

かゝる最中一本松居住の鉱夫(罷業團員)畑山茂樹氏(老々)が米五升其
の他を携山持つて上つて来た。阻止した會社傭人は止むなく黒間を少し許り
開けて之れを通せしめんとした。然し何物を持ってゐたため通れず、爲に畑山
氏は「今少し開けては是非」と頼んだ。會社傭人は

「文句を云ふなら通すな」と言ふなり。尙大畑山氏を突つた。

然して傍に居た土井ヤク女の右乳房の下のアバラを一撃した。

可憐の女の身なれば一撃の下に其場に指倒じた。◎
傭人等は更にヤク女を蹴り撲りつり等して遂にヤク女をして人事不省